

I-8 抗癌剤副作用に対する代替医療

○鄭賢溶, 盧承武 (忠南大学校 一般外科学教室)
宋奎祥 (忠南大学校 解剖病理学教室)
愼京淑, 趙俊植 (忠南大学校 診断放射線学教室)

【目的】最近、癌の早期発見、手術、放射線療法の向上とともに多くの化学療剤の開発で癌治療は効果を上げつつあるが、いまだ放射線照射、或いは抗癌剤による細胞毒と免疫系の損傷等の問題を補完するため、免疫増強剤の併用投与が必要である。演者らは、胃癌患者に術後抗癌剤と免疫増強剤である Mesima® を併用投与した時の再発、転移副作用等を観察した結果を報告する。

【方法】胃癌 (2期～末期) 患者に対して術後転移の疑いがある患者を選定し抗癌剤である 5-FU と免疫増強剤である Mesima® を併用投与し一定期間、内視鏡、超音波、臨床的検査等を通じて、再発、転移、副作用等を観察した。

【結果】 観察期間：術後 6ヶ月～2年
患者年齢：30代 (2名)、40代 (1名)
50代 (4名)、60代 (5名)
70代 (2名) 計 14名

術前進行度：2期 (6名)、3期 (5名)
末期 (1名)、その他 (2名)

患者 14名中 再発、転移、副作用なく良好な患者は 13名 (92.86%) であった。

70歳で3期の患者1名は、Lt. SCLN のリンパ節転移が確認され再び化学療法と併用投与治療中である。

【結論】胃癌術後患者に他の抗癌剤と Mesima® 併用投与した場合もよく似た結果が見られるが、本研究においては、転移可能の高い患者を選び抗癌剤 5-FU と Mesima® を併用経口投与し、一定期間後各種の臨床的検査を行い観察した結果は良好であり、今後癌進行抑制、転移抑制効果に対し引き続き臨床研究を行っていきたい。